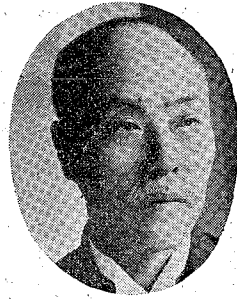


動卒の普及發達を助長し、以て地方産業の振興を促すことは逼迫せる經濟社會の現狀を打開する最良の方策であるに信ずる。

世の有志が社會の現狀に鑑み、叙上の趣旨に聞かれ、官民一致上記助長政策の完成に協力せられ、むことを切に望んで已まない次第である。



## 農村道路の改良

法學博士 瀧 本 誠 一

生産者と消費者とを接近せしめて、成るべく中間の浪費を省減し、必要品の價格を安くして、双方に利益を得せしむるに云ふことが、近世經濟問題の要點である。就中邊鄙の田舎に居つて物價の事なごに不案内なる農業者をして、農産物を吸収するマーケットに接觸せしむることを計るのが農村問題を解決する唯一の鎖鑰であつて、農業者が粒々辛苦して作つたものを狡猾なる仲買人の云ふが儘なる安價で買つて貰はねばならないやうな状態であつては、農村の振興なきに云ふことは到底思ひもよらぬ話である。

然らば農業者をマーケットに接觸せしむるの手段方法はさうしたら宜いか云ふに、それには種々の仕方があるべしと思はる、其の中にも農産物の販賣組織を完全にし、倉庫制度の改良普及を圖り鐵道運輸の特別取扱を擴充するが如きはいづれも最も緊要の事ではあるが、何にをするにも先づ第一の急務は道路港灣の改良に外ならないのである。港灣の改良は道路鐵道と切離すべからざる重大の關係を有するも、今茲には暫らく別問題となし、單に陸上道路の一方より之を觀察するも、それが鐵道と相須つて連絡貫通の便を得なかつたならば農村は如何に自覺を促がしても到底發達の望みはないであらう。殊に我日本の如き山間溪谷の多くして鐵道の敷設に技術上若くは經濟上多大の困難を感じる國柄に於ては普通道路を完全にして、自動車の往來を便にし、邊鄙の農村を其の方面に於ける鐵道の各驛及大小各都市を聯結して、農村を夫れ々各方面のマーケットへ接觸せしむることをしなかつたならば、農村の振興に關する諸政策例へば生産販賣組合の組織、低利資金の貸付、副業の獎勵等を始め今日の農村に必要なあらゆる政策は其の効果を收むることは出來ないであらう。故に農村の振興を計るの第一着手は道路の改良である、鐵道の驛へ荷出しする四五哩の所に往復一日を費やし、加ふるに多大の勞費を要するが如き地方が農村の大部分を占めて居る様では如何なる良政策も其の目的を達しないことは明かである。

歐洲の歴史を案ずるに十六七世紀の頃より英國を先導せしに續いて大陸に於ける各都市の工業が次第に其の近郷に移り、進んで段々遠隔の地に移動して農村到る處に小工業が始まつたのが其の振興の一大動機となつたのであるが、此工業の移動は全く道路の改良に依つて遂げられたの

である。道路の改良が工業を農村へ移動せしむる機會を與へ、農村に工業が移動したる結果が農村の繁榮を來し、農民の生活を向上發達せしむるに至つたことは歴史に徴して疑ふ可らざる事實である。

二

往年日本政府の御雇獨逸人マイエツト氏が有栖川宮邸に於ける皇族方御列席の御前講義に於て日本の如き小農の國柄では副業がなければ到底農民は立行かないであらう、然るに此副業は將來大工業の發達に隨つて、之が爲めに段々壓倒撲滅せられるが故に日本の農村は前途益々困難ならんを云つたことがある。マイエツト氏は獨逸人であつて、其の當時一般學界に信ぜられて居つた誤謬の斷定に據り、現在の經濟社會の趨勢は大工業の發達に伴ひ、小工業の壓倒撲滅を免れないを妄信して斯くは論斷せられたのであらうが、それは大間違ひであつて、小工業は大工業に亡ほされないのみか事實は反對で大工業は却つて大に小工業の發達を促し、盛大なる大工場の現在する地方には各種の小工業が並立若くは相須つて繁昌しつゝあることは統計の明證する所である。故に此點はマイエツト氏に同意することは出来ないが、日本の小農が歴史的の因習に捉はれ、自給自足時代の舊農業を固守して、工業若くは商業の領域内に進入しなかつたならば、到底今日の慘況を脱し、向上發展の見込みはないのである。余は我が國の農民には小工業なる副業の必要を痛切に感ずるのみならず、猶ほ一步を進めて、其の副業を本業化し、農村到る處に煙突の焰々たるを望み、電線の蜘蛛網の如くなら

んことを欲するのである。而して此目的を達するには、先づ道路の改良を計り、貨物の運送を迅速に且便利にするより他に急務なることはあるまいと思はる。

農業を一つの企業として有利の經營を爲さんとするれば、自足自給時代の農業の如く、自ら耕して自ら喰ふべき食料を作るに云ふ舊理想を脱し、廣くマーケットを求めて、高價に賣るべき商品を作ることをしなければならぬのである。例へば割の悪い五穀類を作るよりは寧ろ都會に向つて供給すべき蔬菜や果實を生産して新鮮のまま、迅速に輸出するか、若くは又丁抹なごの如く牛、豚、家鶏の類を盛んに飼養し、牛乳は生のまゝ、又はバター、チーズ等に製し、豚は鹽漬又はハムとなし、鶏は玉子を採取し、組織的の販賣法を立て、都會のマーケット若くは外國へ積出すの手段を執ることが農村の現狀を轉廻し、農民をして都會の商工業者と同じに二十世紀の文化に均沾せしむべき唯一の方法であるが、農村をして茲に至らしめんとするれば、農産物輸送の低廉と迅速とが最も重大の要件である。蔬菜果物、牛乳、玉子の類、皆數哩の遠隔より之を蒐集するには、鐵道以外に於ては貨物自動車に依るより致方ないのである。貨物自動車は村々を朝夕織るが如く縱横に奔走し得るに云ふことが、丁抹の農業發達の要訣である。高價に賣らるべき商品は、大抵皆時間の迅速を要するものである。自動車の貨物輸送に貢献しつつあることは、眞に偉大であるに云ふことは、恐らく何人も疑はないであらう。

### 三

日本の農村道路は概ね粗惡にして、多くは貨物自動車の使用に堪へないのである。今や道路の改

良を以て誇つて居る英國でも、十九世紀の半ば頃までは甚だしき亂雜不統一を極め、各地方皆何れも異りたる行政の下に取扱はれ、延長廣狹區々にして少しも連絡がなかつたのである。現に一八四六年に於ける調査に依れば、同時代には蘇格蘭愛蘭土及ウェールスを除き、唯だ愛蘭土のみの國道で、其の管理は一萬六千個所の異なりたる役所に於て之を取扱ひ、延長修築皆何れも思ひくくにして統一を缺くこと甚だしかつたのであるが、ピール内閣の成立に及び、やつと整理を行つて、從來のバリツシユ制度を改め、更らに道路行政の管轄區劃を六百に分ち、統一方針の下に管理せしむることとなつて以來、着々改良の緒に就きて、立派な道路を見るに至つたのである。英國ですら斯る状態であつたのであるから、進歩の後れたる我が日本に於て、今猶封建の餘弊を免かるゝこと能はず、住々狹隘なる地方的感情に制せられて、農村道路の改良を妨げらるゝことあるは遺憾の極みである。

佛國に於ては一七四三年に道路行政の大方針を確立し、中央政府の直轄の下に國道の改良に着手し、同時に此の改良の目的を達する必要の機關として、技術師の養成所を設立し、之を夫れく各地方へ配置し、統一方針に依つて經營せしめたるが故に、其の效果大いに著はれ、英國に比すれば一層完全に改良の目的を奏したやうである。ノールス氏は其の著産業商業革命史に於て、英佛兩國の比較をなし、佛國に於ては國家の統一安寧は主として平坦迅速なる交通に據るものと認められて居る。故に同國は他の問題に於ては大抵放任主義を是認して居つたに拘らず、十八、九世紀を通じて、運輸交通だけは常に國家の特別なる管理に屬して居つたのである。佛國の運輸交通は、上より天降つて、統一制度の下に行はれ、英國のそれは下から昇天して、區々切れぐに斷片的の發達をなして、往々不統一の

形跡を示して居る云つて居る、實に英國の運輸交通は前にも述べた通りピール内閣のさき整理して大に見るべきものありしも、それでも佛國に比すれば尙甚だ不統一にして多くの缺點を免れないやうである。英國の制度の如く權力の狭小なる地方廳に管理せしめつゝあつては到底不統一を免れないのみならず、行政機關が小なるが爲め豫算も亦少額にして、最も必要なる良技師を得ることも出来ない云ふことである、故に今我が國に於ても道路の改良を完全に行はんことをすれば相成るべく之を國家事業となし、姑息なる農業政策を全廢して充分なる費用を支出し、確乎たる永續的の機關を具備して全國各地方に統一したる道路行政を施行せんことを欲するのである。

#### 四

古代の道路には戰時行軍の目的で造られたものもあり、又租米貢進の爲に造られたものもあり、軍れとして最も著明なものは今に遺跡の残つて居る羅馬帝國の大軍道である、隋の楊帝の造つたのは道路ではなく、運河であるが此の大運河は主として貢米漕運の目的であつたのである、故に詩人は之を讚美して、若無水殿龍舟事、與禹論功不較多と云つて居るのである、我が日本にても上古は行軍又は租稻貢進の爲めに造られた道が多かつたやうである、現に營繕令を見れば、道路橋梁は毎年九月より修理に掛り、十月に終了する規定になつて居るのは、貢進の差支にならないやうに修繕を命じたものらしく、又荻生徂徠が「南留別志」に「道云ふものなくて、いかでかは御調物をはこびけめ」と云つても、上古王朝時代には貢進の爲めに道路に多大の注意を拂はれた一證であらう、我々は今日では我が

内地に大なる軍道だの貢道なきを造らうと云ふのではないが、各地方に於ける農産物のマーケットチングの爲めに一噸積の自動車縦横に走らし得べき農村道路を普及せしめ、農業を商工化する必要の機關たる實效を挙げしめんことを期するのである。

我が陸軍の爲めには既に軍用自動車の補助法なるものあり、至極結構の法なれども、此の法の精神を貫徹するには道路の改良が何によりの先決問題である、大正七年法律第十五號即ち軍用自動車補助法の理由書の冒頭には、民間ニ於テ貨物ヲ輸送スルニ自動車ノ使用ハ經濟上馬車ニ及バズ云々云つて單に戰時に於る人員及軍需品輸送の爲の目的に出でたるもの、如くなるも、これは大なる誤にて今日は一般に經濟上殊に農村の經濟上貨物自動車は最大の必要機關であつて自動車の使用有無が農村の運命の決する分岐點であるを信するのである、故に余はこの補助法を單に軍用のみみせず、今少しく一般的に活用せるゝ様に改正し、それと同時に自動車があつても使用する道路が不完全であつては何の用にも立たないのであるから、早速之を改良するの大方針を一定し、自動車そのものの補助を通路線及哩程數にも及ぼす様に改めたらんには所謂一舉兩得の策なるべしと思はる、陸軍の當局は年々演習行軍に於て全國いづくにても道路の不便に逢着し、田舎道の修繕や橋梁の架設に可なり巨額の支出を要しつゝあるのであらう、余はこんな一時的の間に合せに年々巨額の金を費すよりは國家に於てもつと統一した確乎たる仕法を立て、嘗に軍用の目的でなく廣く地方の爲め農村の爲めに永久的の道路行政を立てんことを望むのである。